

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 05020060

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	7 高齢者支援の充実	事業優先度	B	
単位施策	2 生活支援の充実	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	高齢者等入浴優待事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	5 保健福祉課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	入浴優待券の利用率		#N/A	
事業目標	全対象者への入浴優待料金助成	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 雄武町高齢者等入浴優待事業実施要綱	
住民協働		関係個別計画名	有 雄武町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画	

全 体 計 画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	雄武町高齢者等入浴優待事業実施要綱に基づき、高齢者、身体障害者、知的障害者、精神障害者に、健康の増進と生きがいの充実を図ることを目的として、ホテル日の出岬の入浴優待券を交付する。 対象者 (1)70歳以上の高齢者 (2)身体障害者手帳1,2級、療育手帳A、精神手帳1級 交付枚数 年間 12枚	高齢者等入浴優待券を交付する。	高齢者等入浴優待券を交付する。	高齢者等入浴優待券を交付する。	高齢者等入浴優待券を交付する。	高齢者等入浴優待券を交付する。	
	事業費(千円) 10,700 国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 4,000 一般財源 6,700	2,100	2,300	2,300	2,000	2,000	
計 画 事 業 費	事業費(千円) 9,232 国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 4,431 一般財源 4,801	1,695	1,951	1,831	1,735	2,020	
	実績事業費 国庫支出金 0 道支出金 0 地方債 0 その他 4,431 一般財源 4,801	1,110	1,019	916	869	517	
関 連 事 項	特定財源の名称 その他 北海道後期高齢者医療 広域連合長寿・健康増 進事業特別対策補助金 【評価・実績】	(実施内容等) 高齢者等入浴優待券交付 ・70歳以上の高齢者 ・身体障害者1・2級、療育手帳A 精神障害者1級 〈利用枚数〉 〈決定者数〉 3,766枚×450円 (676名) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者等入浴優待券交付 ・70歳以上の高齢者 ・身体障害者1・2級、療育手帳A 精神障害者1級 〈利用枚数〉 〈決定者数〉 3,823枚×500円 (634名) ※事務事業評価結果 B-継続/内容の見直し・変更	(実施内容等) 高齢者等入浴優待券交付 ・70歳以上の高齢者 ・身体障害者1・2級、療育手帳A 精神障害者1級 〈利用枚数〉 〈決定者数〉 3,590枚×500円 (600名) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者等入浴優待券交付 ・70歳以上の高齢者 ・身体障害者1・2級、療育手帳A 精神障害者1級 〈利用枚数〉 〈決定者数〉 3,405枚×500円 (567名) ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) 高齢者等入浴優待券交付 ・70歳以上の高齢者 ・身体障害者1・2級、療育手帳A 精神障害者1級 〈利用枚数〉 〈決定者数〉 4,009枚×500円 (579名) ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	100%	100%	100%	100%	100%
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	81%	85%	80%	87%	101%
	(継続有り)	全体達成率	16%	34%	51%	67%	86%
備考欄							

事業名	高齢者等入浴優待事業	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	社会福祉係	中西 厳太

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	入浴優待券の利用率		
【抱える課題やニーズは】	高齢者等が健康で生きがいのある生活が送れるよう、各種福祉サービスの充実など総合的な支援が求められている。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	高齢者等における健康の増進と生きがいの充実を図った。		① 利用された優待券の枚数 ÷ 交付した優待券の枚数 = 優待券の利用率	目標年度	平成29年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	温泉施設を利用することで、高齢者等の健康保持と健康増進を図る。			目標値	100%
			実績値	58.5%	
			達成度	58.5%	
		②	目標年度	平成29年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	#DIV/0!%	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	入浴優待券の交付	対象者からの申請に基づき審査を行い、ホテル日の出岬で利用できる入浴優待券を交付した。			
	温泉入浴無料送迎バスの運行	毎月2回、福祉バスを使用し、ホテル日の出岬への温泉入浴無料送迎バスを運行した。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	温泉入浴は健康増進や疲労回復の効果があり、当該事業による町の支援は必要性が高い。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施することで、高齢者等の健康増進や疲労回復、生きがいの充実が図られた。利用率については前年度と比較して微増したが、半数程度と低い水準での推移が続いている。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	前年度の申請者については、予め申請書を作成しておくことで、申請書に記載する時間と待ち時間が短縮できた。また、入浴優待券の様式を変更したため、事務処理量を削減でき、さらなる時間短縮ができた。事務処理の工夫をしながら経費節減に努めた。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	必要な条件を具備していれば、全ての申請者に交付されることから公平である。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
温泉入浴を楽しみにしている高齢者等にとって健康増進と生きがい充実の観点からも必要性が高く、高齢者等の生活と福祉の向上を図るものとして適当である。町広報4月号で周知しているが、当事業を知らない方が見受けられるため、10月号広報においても周知を図った。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
健康増進及び生きがい充実を図るため、町の支援は必要であり、高齢者福祉及び障がい者福祉向上のため、事業は継続して行う必要がある。また、10月号広報を見て申請する高齢者等もいたことから引き続き、年2回の周知を行うこととしたい。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止